

「日本活断層百選」活動の紹介

An introduction of Japan Active Faults Superior 100 Selection

豊蔵 勇^{1*}, 吾妻 崇², 太田 陽子³, 岡田 篤正⁴, 桂 雄三⁵, 正野英憲⁶, 田近 淳⁷, 中田 高⁸,
原田明夫⁹, 星野 実¹⁰, 細矢 卓志¹¹, 向山 栄¹²

Isamu Toyokura^{1*}, Takashi Azuma², Yoko Ota³, Atsumasa Okada⁴, Yuzo Katsura⁵,
Hidenori Shono⁶, Jun Tajika⁷, Takashi Nakata⁸, Akio Harada⁹, Minoru Hoshino¹⁰,
Takashi Hosoya¹¹, Sakae Mukoyama¹²

¹ジオ・とよくら, ²産総研, 活断層・地震研究センター, ³台湾大学, ⁴立命館大学, ⁵文化庁文化財課, ⁶日本工営,
⁷道立地質研究所, ⁸広島工業大学, ⁹東京国立博物館, ¹⁰国土地理院, ¹¹中央開発, ¹²国際航業

¹Geo-Toyokura, ²AFERC, AIST, GSJ, ³National Taiwan Univ., ⁴Ritsumeikan Univ., ⁵Agency for Cultural Affairs,
⁶Nippon Koei Co.,Ltd., ⁷GSH Hokkaido Gov., ⁸Hiroshima Inst. Tech., ⁹Tokyo National Museum,
¹⁰Geographical Surv. Inst. of Japan, ¹¹Chuo Kaihatsu, ¹²Kokusai Kogyo

1. はじめに

日本活断層学会は、平成21年度から日本における活断層や地表地震断層等を対象として「日本活断層百選」の選定を専門委員会活動として開始したので、その途中経過を紹介するとともに、会員・非会員を問わず多数の方に本活動への参加をお願いする次第である。

我が国には、近い将来において再活動により大きな被害が生じる可能性のある「主要な活断層」と呼んでいる起震断層帯が100余りあり、その他方で主として明治時代以降、一部歴史時代を含めて陸域および海域で発生した比較的大きな被害地震により地表地震断層、地表変動および大規模の随伴地表変動など、例えば大規模崩壊が生じたことが知られている。日本活断層百選の活動の目的は、このような活断層や地表変動などのうち、変動地形・地質等が顕著な断層帯・箇所についておおよそ100ヶ所を目途に「百選」として選定し、その保存、科学教育、防災教育、地域防災、地域振興などに資することである。

2. 選定のための手順

活断層百選を選定するための手順の概要は以下のとおりである。

1) 計画準備, 2) 候補断層・箇所リスト作成, 3) 選定基準検討・作成, 4) 推薦シート作成・写真等の公募, 5) 選定方法の検討・選定会開催, 6) 選定結果の発表, 7) 自治体等への通知等

なお、「百選推薦のための推薦シート作成・写真の公募」の際には、会員・非会員問わず多くの方から活断層資料の提供をお願いしたいと考えている。

3. 選定基準について

活断層百選が上述の目的をもっているため永続的に多くの人から支持されることが望ましいが、それには出来るだけ客観的な選定基準を作ることおよび出来るだけ多く人が参加できることが重要と考えられる。目下、選定基準に関しては、以下のようなものをたたき台として作成した。今後、検討を重ねより良いものとして行く予定である。

活断層百選の選定基準 案(複数選択可) ver.1

I 活断層(帯)の選考基準(重要度は順不同)

A: 第1級の活動度を持ち、地形・地質学的に明瞭なもの

B: 歴史時代に活動し、その痕跡が認められるもの

C: 大都市など人口密集地に近く、社会的影響が大きいもの

D: 先駆的研究などがなされ、典型的な活断層地形などが保存されているもの

E：その他（具体的に）

Ⅱ 選定地点（区間）の選考基準（重要度は順不同）

A：地形・地質学的な証拠が明瞭な地点

B：見学などにとって便利な地点あるいは教育保存施設などが整備されている

C：すでに国や地方自治体によって天然記念物等に指定がなされている地点

D：その他（具体的に）

4. スケジュールと内容

平成21年度の現在の作業状況としては、「候補断層・箇所リストの作成」および「選定基準検討」中の段階である。本発表では、これまでの経緯、選定用資料、選定基準案および今後のスケジュール等について述べる予定で、あわせて5月に開催される活断層学会総会において、百選の代表的な断層・箇所ならびにその際の選定基準案について公表する予定である。

平成22年度の作業としては、本発表を通じて得られるであろうさまざまな意見を集約し、選定基準作成および選定作業を本格的におこなっていく予定である。

日本活断層学会・活断層百選専門委員：吾妻 崇（産総研活断層・地震研究センター）、太田陽子（台湾大学）、桂 雄三（文化庁）、正野英憲（日本工営）、田近 淳（道立地質研究所）、豊蔵 勇（ジオ・とよくら）、中田 高（広島工業大学）、原田明夫（東京国立博物館）、星野 実（国土地理院）、細矢卓志（中央開発）、向山 栄（国際航業）。同委員会顧問：岡田篤正（立命館大学）、松田時彦（地震予知振興会）

キーワード:活断層,百選,地震断層,天然記念物,研究教育,防災

Keywords: active fault, 100 selection, surface fault, national monument, research education, disaster prevention